

持続可能なまちづくり
について問う！



栗原 収
議員

問 都市計画マスタープランでは、本市を7つの地域に区分した地域別構想を設定している。そのうちの「山辺・矢場川・御厨」地域のまちづくりの方針を聞きたい。

市長 同地域は国道50号や東武鉄道による交通の利便性を生かし、土地利用がバランスよく発展してきた地域である。「にぎわいと活気のある楽しいまち・住みやすいまち」をテーマとし、この地域の特性を生かしたまちづくりに取り組んでいく。



▲あがた駅南産業団地

◆人口減少防止策

問 人口減少防止策の一つに若者世代の移住・定住対策が挙げられる。まちの活気創出にもつながるが、具体的にどのような施策が有効と考えているのか。

市長 新たな雇用創出のための産業団地の開発をはじめ、若者や子育て世代に適した良質・低廉な宅地の供給、切れ目のない子育て支援、移住ツアーなど、積極的に取り組んでいる。さらに、本市の魅力と暮らしやすさをPRするため、移住希望者向けの新たなウェブサイトの開設準備を進めている。

足利大学
本城キャンパスの
周辺整備を！



中山 富夫
議員

問 ことし4月、足利大学本城キャンパスがオープンし、学生の姿が多く見られるようになった。これを機に周辺の整備を進め、地域活性化につなげるべきと考えるがどうか。

総合政策部長 本城キャンパスの周辺を整備し、大学の表玄関にふさわしい魅力的な空間を創出することは、さらなるまちのにぎわいづくりにつながる。今後整備の範囲や手法について具体的な検討していく。



▲足利大学本城キャンパスとその周辺

◆南部クリーンセンター建て替え

問 焼却により排出される熱を電力に変えるバイオマス発電を導入すべきと考えるが、市の考え方を聞きたい。

生活環境部長 循環型社会においては、焼却せざるを得ないごみが発生した場合、バイオマス発電などでその焼却熱を利用することとされている。そこで、本市の新たな施設の整備では、余熱の利活用に関して先進事例を参考に調査研究を進め、本市の状況に合致した施設となるよう努めていく。

キッズウィークの
取り組みについて問う！



大島 綾
議員

問 政府が推進するキッズウィークは、家族が一緒に過ごす機会をふやすために学校の長期休業を分散する取り組みであるが、本市教育委員会の考えを聞きたい。

教育長 キッズウィークは大変意義のある取り組みと捉えているが、一方で保護者が仕事を休めない場合や、子どもの居場所としての地域の受け皿が整備されていないかどうかなどの課題もあるため、今後研究していきたい。



◆逆ヘルプマーク

問 支援を必要としている方がつけるヘルプマークの逆の発想で、支援する意思のある方がつける「逆ヘルプマーク」を作成し、普及してはどうか。

健康福祉部長 逆ヘルプマークには支援をつなぐ効果があると考えるが、悪用防止対策など十分な調査と検討が必要である。ヘルプマークは県が取り組んでいる事業であることから、逆ヘルプマークについても栃木県とともに考えたい。